

# 富士の民話 あれこれ

## 平井島の

# いいなり地蔵

富士緑道の旧豎堀駅公園から北へ約四百メートルほど歩くと、左手に木造の建物があります。建物の中には「いいなり地蔵」と呼ばれる、顔の細長いお地蔵さんが祭つてあります。

今回はこのお地蔵さんにまつわるお話を紹介します。



いいなり地蔵 (中央) ▶

昔はお地蔵さんがあるあたりにも富士川が流れていて、この地区は平らで島のようなであったために平井島と呼ばれています。

その昔、平井島付近の河原にお地蔵さんが流れ着きました。お地蔵さんを見つけた村人は、このお地蔵さんを川のほとりに安置しました。

この地区の村々は、新田開発によって新しくできたものが多く、村人たちが心の安らぎを求める氏神などは、初めのうちはなかったのでしょうか。村の生活が安定していくのに従って、このお地蔵さんもいつのころから祭られるようになりました。

毎月十二日(十二日講)と、十四日の祭りの日には、近所の女性たちがお堂に集まってお題目を唱えています。毎年八月十四日には、本祭りが行われます。今では、昔のように露店がたくさん並ぶにぎやかなお祭りではありませんが、お堂にのぼりをたてたり、お参りに来た子供たちにお菓子を配ったりしています。



平井島のいいなり地蔵は、漢字で「言成地蔵」と書くこともあります。だれがつけたというわけでもなく、いつのころからかそう呼ばれています。

以前、悩みをかかえた女性がこのお地蔵さんにお参りを続けたところ、その悩みが解決したということです。その後この女性は、八月十四日の本祭りには、欠かさずお参りに来ていたそうです。

平成十年に、老朽化したお堂の修復を行いました。主に屋根と堂回りの修復でしたので、地区の皆さんの力だけで直すことができました。今では近所の方が交代でこのお堂を管理し、守っています。

最近はお地蔵さんのことを詳しく知る人も少なくなってしまうましたが、地域の大切な文化財の保護のためにも、子供たちをはじめ、もっと多くの皆さんにこのお地蔵さんのことを知ってほしいですね。



平井島地蔵尊保存世話人会  
メンバー  
遠藤 慎さん (松本)

### こちら編集室

娘が保育園に通い始めて2か月。親の心配とは裏腹に、入園当初から保育園が楽しくてしょうがなく、出掛けるときの服装と帰ってくる時の服装が違って、着がえ袋には泥だらけの服が入っている毎日です。

また、迎えのときには家に帰る

のが嫌で「どうして迎えにきたの」と言われるなど、親なんか必要ないみたいです。

こうして子供が元気に遊んで過ごし、親である私たち夫婦が安心して仕事ができるのも保育士さんたちのおかげだと痛感しています。

——— 親バカ日誌パート2

人口 239,375人 (前月比+393)  
男 119,183人 (+264)  
女 120,192人 (+129)  
世帯 80,018世帯 (+378) 5月1日現在  
編集・発行 富士市総務部広報広聴課  
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100  
☎51-0123 ㊟51-1456

